

ABC通信

四国中央市立
三島西中学校
2年学年通信
2020/03/11
私たちは今…号



2011年3月11日金曜日 午後2時46分 マグニチュード9.0の巨大地震が発生 今日で東日本大震災から9年

3月11日14時46分、三陸沖で巨大地震発生

地震の規模を表すマグニチュードは最初8.8と報道されましたが、
あとからマグニチュード9.0に訂正されました。

観測史上世界4番目の巨大地震。

そのエネルギーは

阪神・淡路大震災(1995年)の約1450倍。

中学2年生のみなさんは、**当時5歳。**

どこまで、当時の状況を、これまでの復興への営みを
知っているのでしょうか…

臨時休校になって1週間が経ちました。

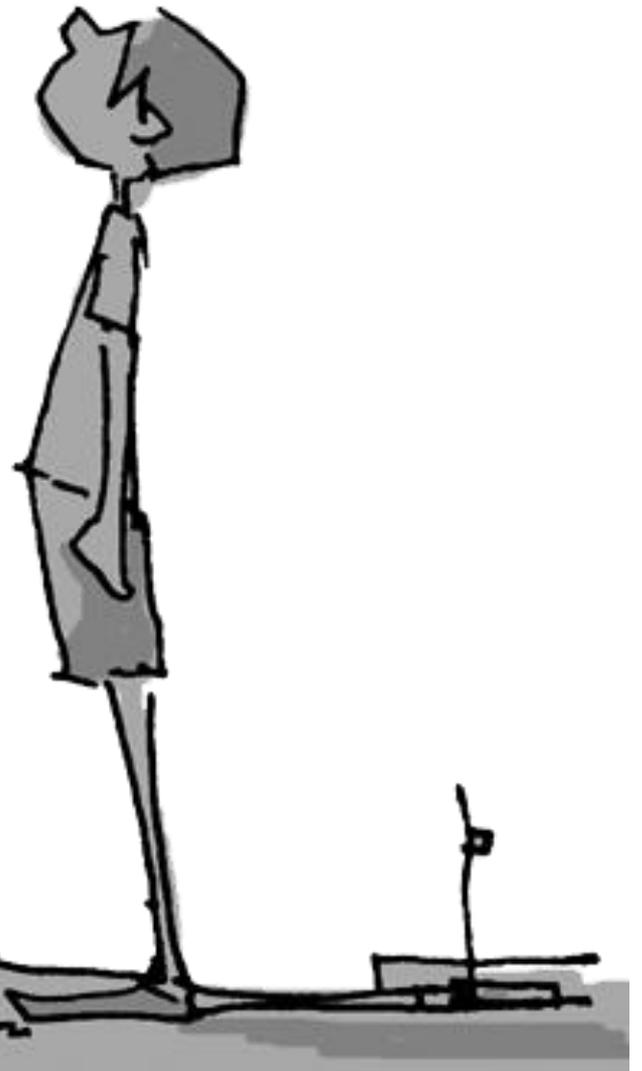
どのように過ごしていますか。

休校前日の全校集会、学年集会、学活でのお話は
どれだけ実行されているでしょうか。

本来であれば、学校で今日という日の出来事を
みんなで考えたかったのですが、それがありません。

代わりに、次の文を読んで、

私たちの今置かれている状況と重ね合わせながら、
命の尊さを、日常のありがたさを、改めて考える
一日にしてください。



全国に感動を与えた気仙沼市立階上中学校の卒業式における卒業生代表の答辞

卒業生代表の言葉

機会があれば、YouTubeで「卒業式答辞・東日本大震災」を検索してみてください。

本日は、未曾有の大震災の傷も癒えないさなか、私たちのために卒業式を挙げていただき、ありがとうございます。

ちょうど十日前の三月十二日。春を思わせる暖かな日でした。

私たちは、そのキラキラ光る日差しの中を、希望に胸をふくらませ、通い慣れたこの学び舎を、五十七名揃って巣立つはずでした。

前日の十一日。一足早く渡された思い出のたくさん詰まったアルバムを開き、十数時間後の卒業式に思いをはせた友もいたことでしょう。「東日本大震災」と名付けられる天変地異が起こるとも知らずに…。

階上（はしかみ）中学校といえば「防災教育」といわれ、内外から高く評価され、十分な訓練もしていた私たちでした。しかし、自然の猛威の前には、人間の力はあまりにも無力で、私たちから大切なものを容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というには、むごすぎるものでした。つらくて、悔しくてたまりません。

時計の針は十四時四十六分を指したままです。でも時は確実に流れていきます。生かされた者として、顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。

命の重さを知るには大きすぎる代償でした。しかし、苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。

私たちは今、それぞれの新しい人生の一步を踏み出します。どこにいても、何をしようとも、この地で、仲間と共有した時を忘れず、宝物として生きていきます。

後輩の皆さん、階上中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友達が、いかに貴重なものかを考え、いとおしんで過ごしてください。先生方、親身のご指導、ありがとうございました。先生方が、いかに私たちを思ってくださっていたか、今になってよく分かります。地域の皆さん、これまで様々なご支援をいただき、ありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。お父さん、お母さん、家族の皆さん、これから私たちが歩んでいく姿を見守っててください。必ず、よき社会人になります。

私は、この階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。

最後に、本当に、本当に、ありがとうございました。

平成二十三年三月二十二日

第六十四回卒業生代表 梶原 裕太

（文部科学省教育白書 2010 より）